

平成 21 年度（第 1 回）高岡市男女平等推進市民委員会

会議録（要旨）

○ 日 時 平成 21 年 10 月 27 日（火） 13:30 ～ 15:00
○ 場 所 高岡市役所本庁舎 3 階庁議室
○ 出席者 ・ 委 員 14 人（大石会長、串田則子副会長、青木委員、穴田委員、石田委員、彼谷委員、川田委員、串田幹夫委員、小間委員、西海委員、日和委員、沙魚川委員、道前委員、吉村委員） ・ 高岡市 8 人（高橋市長、新井経営企画部長、加藤経営企画部参事、澤田男女平等・共同参画課長、野村男女平等推進センター所長、岩上主幹、能登主査、徳市主任） ・ 傍聴者 1 人
○ 内 容 1 開 会 2 委員紹介 ●事務局 ・ 委員推薦母体の団体の役員改選等に伴い、今年度、次の 2 名の方が新たに委員として就任されたことを報告。 道前正光氏（人権擁護委員高岡地区人権委員会） 木本博之氏（高岡青年会議所 本日欠席） ・ 今年 6 月の「高岡女性の会連絡会」解散に伴い、同会所属の須賀泉美氏が委員を辞任されたことを報告。 3 市長あいさつ ●高橋市長 ・ 高岡市男女平等推進市民委員会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げる。 ・ 皆様方には、日頃から、本市における男女平等・共同参画の推進はもとより、高岡市政の進展のため様々な分野においてご尽力ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。 ・ 去る 9 月 12 日、13 日の両日には「高岡開町まつり」が開催された。「市民参加と高岡の発信」をコンセプトとして、市民総参加で盛り上げていただいた。改めてお礼申し上げたい。 ・ 今後とも、開町 400 年の年に結集された市民のエネルギーを、自分らしく生き生きと暮らせるまちづくりに結びつけ、未来に翔（はばた）く元気な「ふるさと高岡」の創造に努めてまいりたい。 ・ さて、男女共同参画社会の実現は、21 世紀の我が国社会の最重要課題と位置づけられている。本市においても、これまで、市民の積極的な活動とご協力のもと、男女平等・共同参画を推進す

るため、その基礎となる枠組みの整備を進めてきている。昨年には、本市の男女平等・共同参画に対する姿勢を市内外に発信し、実現に向けての気運を一層高めていくため、「高岡市男女平等・共同参画都市宣言」を実施したところである。

- ・ 本委員会の皆様方には、宣言文の作成にあたり、多大なご協力を賜り、改めて感謝申しあげる次第である。
- ・ 本日は、男女平等推進プラン前期事業計画の平成 20 年度における取組状況についてご報告させていただく。
- ・ ご承知のとおり、当プランでは、5つの基本目標、11の重点課題、25の施策の方向から取り組むこととしており、28の数値目標を設定している。28の指標の推進状況を見ると、全体的には、策定時の基準数値より上回っている指標は17で、ゆるやかながら推進している。
- ・ 「市の審議会・委員会の女性委員の比率（26.7%から27.6%で前年度比0.9ポイントの増）」、「市が市民と協働で行っている事業の数（79事業から96事業で前年度比17事業の増）」、「子育て支援センターの年間利用者数（28,896組から35,819組で前年度比6,923組の増）」など、順調に推進しているものがある一方、伸び悩んでいるものもある。本市としては、その要因を明らかにするとともに、対策を検討し、実施に努めてまいりたい。
- ・ 詳細については、この後、事務局より説明する。皆様方には男女平等・共同参画社会の実現に向けて取り組むべき課題についてご審議賜りますようお願いしたい。また、皆様からいただいた貴重なご意見については、今後の市の施策に反映していきたいと考えており、どうぞ忌憚のないご意見を賜りたい。

4 大石会長あいさつ

大石会長

- ・ 高岡市男女平等推進市民委員会の開会にあたり、一言ご挨拶を申しあげる。
- ・ 早いもので、「高岡市男女平等・共同参画都市宣言」の作成から一年が経った。
- ・ 昨年11月1日に、ウイング・ウイング高岡で開催された記念式典では、多くの市民の方々が集い、「都市宣言」が声高らかに読み上げられたことを、つい昨日のこのように思い出される。
- ・ 今年度に入り、高岡市はもとより、市民団体の皆様の主催する事業の中で、この「都市宣言」が読み上げられることも少なくない伺っており、大変嬉しく思っている。
- ・ 今後とも、男女平等・共同参画社会づくりの重要性を、行政や、市民・事業者の皆様で再確認し、高岡市の男女平等・共同参画に対する姿勢を市内外に発信し、実現に向けての気運を一層高めていく取組を期待している。
- ・ さて、本日は、高岡市男女平等推進プラン前期事業計画に掲げる具体的施策の平成 20 年度における取組状況について、事務局より報告がある。
- ・ それをもとに、皆様方には、活発な議論が行われますようお願いしたい。

5 高岡市男女平等推進プラン前期事業計画（H19～H23）平成 20 年度における取組状況について 大石会長

- ・ それでは、「男女平等推進プラン前期事業計画の推進状況」の平成 20 年度における取組状況について事務局より説明いただきたい。

●事務局

— 資料2により説明 —

大石会長

- ・ ただ今の説明で、何かお聞きになりたいことや確認されたいことはあるか。

○委員

- ・ 重点課題3「地域活動の場での協働や男女平等・共同参画の推進」で、指標№3「認証されたNPO法人の数」が、指標として挙がっているが、NPO法人格を持たなくてもしっかりとまちづくりの活動をしている市民活動団体も少なくない。
- ・ 法人格の有無にかかわらず、こういった活動をやっているかという、活動の中身が大切だと考える。
- ・ また、色々な市民活動団体があるが、情報発信がうまくなされていないと感じる。新聞は、「昨日こんなことがありました。」と、終わったことが報道される。事前告知の情報発信が必要である。
- ・ 市民活動団体は、事前告知のため、インターネットなど、様々な媒体を有効活用すべきと考える。

○委員

- ・ Eネットの活動の一つにEフェスタ事業があるが、これを担当課(男女平等推進センター)のホームページに載せてもらっている。
- ・ 市民活動団体の活動に関係する課のホームページに、その団体のイベント情報を掲載していただいたり、市広報紙「たかおか市民と市政」に載せていただいたりすることはできないか。

●事務局

- ・ それぞれの目的、スペース等の問題から、全ての要望にお応えすることは難しいが、情報発信には工夫をしていきたい。

○委員

- ・ 「たかおか市民活動情報ポータルサイト」を活用するなど、自分たちの活動を自分たち自身で知ってもらおうという努力が必要ではないだろうか。

○委員

- ・ 資料2の1ページの指標№1「市の審議会・委員会の女性委員の比率」については、確かに数値がアップしており、成果が挙がっているように見える。
- ・ 審議会・委員会など方針決定の場で、女性、外国籍の方、ハンディのある方など、色々な立場の人の意見を吸い上げてほしい。
- ・ あて職について、富山市は同じ人が重複しないように5つの枠を作っている。
- ・ 指標№5「特別保育の実施保育所数」、指標№6「子育て支援センターの年間利用者数」は目標数値を達成している。
- ・ しかし昨今、新型インフルエンザの流行で、県内で、学校閉鎖、学年閉鎖が相次いでいる。このような実情をふまえ、子育て支援のために、何か市として対策を講じているのであれば伺いたい。
- ・ 指標№9～12の低い数値は、市役所職員の育児や働きかけの問題を表している。
- ・ 高岡開町400年事業など、特定の要因もあるかと思うが、今後、市として労働時間の見直

しやワーク・ライフ・バランスの実現にどのように取り組んでいくのか伺いたい。

●事務局

- ・ 新高岡市になって初めて策定した総合計画において、目標とする指標を設定した。男女平等推進プランなど、個々のプランにおいても、指標を導入したところである。
- ・ これまでは、様々な計画の推進状況の報告の際には、「こんな事業をやりました。やっています。」という報告に終わっていたが、これからは、推進の度合いを客観的に判断するものとして、数値目標を掲げた。
- ・ 数値目標を達成したからそれで終わりではなく、目標値の設定・その後どうするか、などについては今後も協議していく。
- ・ 公募については、市としてもどのような方に入ってもらうか、可能な限り配慮したい。また、市民の方も色々な方に応募していただきたい。
- ・ あて職の重複（上限）については、高岡市は7つという目標で守ってきている。
- ・ インフルエンザ対策については彼谷委員ご指摘のとおり。実際どうしていくかについては特に小・中学校の保護者に負担をかけるのだろうが、可能な限り努力していきたい。
- ・ 男性育児休業取得率については、高岡市の職員自身の取得率が少なく、辛いところであるが、これとは別に、育児参加の特別休暇を新設し、5日取得できるようになり、この取得者数は増えている。
- ・ 今年は開町400年事業の一次的業務もあり、超過勤務が多かったかと思うが、今後ともワーク・ライフ・バランスの実現に向け仕事と育児の両立支援を続けていきたい。

大石会長

- ・ インフルエンザについての対応に期待したい。

○委員

- ・ 学校の耐震化・トイレの洋式化の状況について伺う。
- ・ 子育て支援センターの年間利用者数が増えているが、増えることはよいことなのか。

●事務局

- ・ 小・中ともにワンフロアに1箇所、洋式トイレを設置している。
- ・ 公民館の耐震化も順次進めているところである。
- ・ 今後とも、子育て支援センターの利用について、周知・PRを図るとともに、子育てサロン・母子保健推進員による育児支援など、地域の子育て支援に取り組んでまいりたい。

○委員

- ・ DV防止基本計画について、高岡市でも是非策定してもらいたい。
- ・ DVは犯罪ともなりうる。優先順位があるのならば是非優先して、計画を策定してもらいたい。市民委員会でも何かできることはないか。

大石会長

- ・ DVについては問題化しにくい部分もあり実態把握が難しい。実情に応じて慎重に対応しなければならない。

○委員

- ・ 人権擁護委員の立場から、DVは大変な問題であると理解しているが、内輪の事でもあることからなかなか具体的に相談があがってこない。色々なところでPRしていくことが大切だと考えている。

- ・ 親にも友達にも言えない悩みを打ち明ける、「子どものミニＳＯＳレター」活動を、校長会を通じてお願いしている。

○委員

- ・ スクールカウンセラーが、デートＤＶの仲裁に入った話を聞いたことがある。若い世代はデートＤＶについて理解していない。インターネット等を利用して、２次被害を出さない取り組みをすることが大切。
- ・ 県がＤＶについてのリーフレットを作成・配布しているが、実際どの程度普及しているかわからない。配るだけでなく、そのあとのフォローアップも必要。

○委員

- ・ 推進員として、今年はＤＶをテーマに１年間活動してきている。
- ・ 自治会の役員から、「そのような一部の人のことなのに？」という意見があった。地域の中心となる方がそのような認識でよいのか。
- ・ 「ＤＶ基本計画」があることで、すぐＰＲになるのであれば計画策定は大切だと思うが、まずは市民委員のような、この問題をよく理解している方が、地域での啓発をすることから始めるべき。

●事務局

- ・ ＤＶ基本計画については、男女平等推進プランの重点課題として「あらゆる暴力的行為や虐待の根絶」が含まれているので、まずはそれに基づき具体的にやっていきたい。
- ・ 大きく分ければ、「啓発」・「相談」・「保護」であり、其々高岡市として取り組んでいるところである。
- ・ 平成２０年度、男女平等推進センター相談室に寄せられた相談件数は２,５３１件あり、その中で生き方に関する相談が４４.７％、ＤＶに関するものが２５.６％、夫婦の問題が９.５％を占めている。ＤＶ被害者については、県女性相談センター、警察等関係機関と連携を密にしながら、被害者の安全確保や生活支援を行っており、今後も相談室の周知について努力したい。
- ・ 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会の皆様にも、９月に開催されたパートナー会議において、ＤＶについての難しい問題を解りやすく提案していただいた。

大石会長

- ・ その他の意見はないか。

○委員

- ・ 育児休業については、行政のみならず、私たちも努力すべき。法の整備はされてきたが、企業での取り組みについてはどうか。
- ・ 大企業では浸透してきているが、中小企業では普通の休暇を取ることも難しい。

●事務局

- ・ 企業においても育児休業を取得することがある意味「当たり前」と思う経営者が今後増えてくれば、良い方向に行くのではないか。
- ・ 無理をしながらでも一歩先に進む方の姿を紹介・支援できるように努力したい。

○委員

- ・ 高岡市は昨年「男女平等・共同参画都市宣言」を制定している。男女共同参画社会の実現に向けて、雇用の場においても意識啓発をすることが必要。
- ・ 事業主に行動計画を提出してもらうことはできなくても、議論の場を設けることが大切。

大石会長

- ・（事業主の）腰を引いていることも考えられるが、不況のなかでこそワーク・ライフ・バランスを提唱することが大切。

○委員

- ・ 20年度の男性の育児休業率の実績（31人）はどのような数字なのか。
- ・ 父親だけでなく、祖父など、家族全員が育児に関わることが子どもの成長にとって大切なことと考える。

大石会長

- ・ 育児休業取得率についての質問、そして家族全員で子育てすることの重要性についてご提案をいただいたが。

●事務局

- ・ 20年度の数字（31人）については、実際に出産予定の人数である。
- ・ 家庭における育児の関わりについては、委員のおっしゃるとおりである。貴重な提案をいただいた。
- ・ 終了時刻が近づいてきたので、事務局から説明のあった「指標についての3点の見直し」について、委員の皆様の確認を取りたい。

（全員 同意）

大石会長

- ・ 本日、委員の皆様からいただいた意見を今後、施策に反映させていただきたい。

〔以 上〕